

「日本健康相談活動学会誌」執筆要領

1. 原稿の分量

投稿原稿の1編は原稿の種類を問わず、図及び表を含めて本文を以下の頁にとどめることを原則とする。

【原著 (Original Article)】【総説 (Review)】【研究報告 (Research Article)】【実践研究 (Practical Report)】…8頁

【短報 (Research Note)】…6頁

【特別報告】…隨時提示する

【その他】…2頁

2. 原稿の体裁

- 1) 原稿はA4版（1行40字×35行、1400字）で横書きとする。文字サイズは10ポイント、フォントはMS明朝体、ローマ字はヘボン式を用いることが望ましい。
- 2) 本文には、左側に連続した行番号（本文全体を通した番号）を入れる。
- 3) 項目番号の順番は、原則として下記のとおりとする。
I 1 1) (1) ① i
- 4) 図表は全て本文とは別紙とし、本文中に挿入を希望する箇所に原稿の右の欄外に朱書により指定する。
- 5) 本執筆要領に記載の「論文構成見本」（表1・2）をもとに原稿を作成する。
- 6) 図表の原図は、明瞭に作成する。縮小することが適當と思われる図表は、原図と縮小した図表をともに作成し、その旨を明記する。印刷製版に不向きと思われる図表は書き換え又は割愛を求めることがある（専門業者に制作を依頼したもの）の必要経費は、著者負担とする。
- 7) 原稿には表紙をつけ、①タイトル（日本語）、②タイトル（英語）、③著者名（日本語・英語）、④所属機関名、⑤編集委員会との連絡窓口を担う筆頭著者の連絡先（所属機関の住所（郵便番号含む）、郵便物受け取り住所、個人の電話番号、メールアドレス）、⑥全著者の論文への貢献（研究や論文執筆における役割）、⑦査読結果を通知する著者2名のメールアドレス（筆頭著者除く）、⑧図表や写真の数、⑨希望する原稿の種類、⑩別刷希望部数、⑪編集委員会への連絡事項を明記する。正論文用には①～⑪まで、副論文用は査読用なので①②⑧⑨を記入する。
- 8) 原稿には、和文要旨（600字程度）とその英語訳及び5つ以内のキーワード（日本語・英語、記述順序は、重要なワード順）をつける。これらは、表紙及び本文とは別に別紙として用意する。原稿に掲載する英文は、採択後、ネイティブによる専門業者の校閲を受け、証明書と併せて提出する。なお、特別報告については、採択後、タイトル（英語）のネイティブによる校閲を受ける。

3. 本文に含むべき内容

- 1) 倫理的配慮について、研究方法の項目内に記載する。所属機関等の倫理審査委員会から承認を得ている場合は承認番号を記載する。
- 2) 英語で執筆する場合は、国際的な読者層を意識して執筆する。
- 3) 投稿した原稿に関連する利益相反（COI）については、論文の末尾に開示の必要性を明記する。

4) 生成AIや分析ツール等のソフトウェアを使用した場合には、種類、使用の範囲及び使用目的を本文中（方法や付記等）に適切に明記する。

4. 文章の表記

- 1) 日本語の句読点は、「、」「。」とする。
- 2) 日本語の文章は新かなづかいを用いて、楷書にて簡潔に記述する。句読点、カッコ等（「（{～}）」は全角1字分とする。）
- 4) 数字はすべて算用数字とする。日本語は1桁の場合は全角、2桁以上の場合は半角とする。
- 5) その他、文章表記に関しては、本学会が作成した「文章表記方法の参考資料」をホームページ上で確認し、参照する。

5. 文献記載の様式

- 1) 数字はすべて算用数字とし、半角とする。
- 2) 著者が多数の場合は最初の3名を記し、あとは「他」（英文はet al.）とする。
- 3) 文献の記載方法は以下のとおり引用番号順とする。
 - ① 引用文献は、本文中の引用箇所の右肩に「……¹⁾²⁾」、「……¹⁾⁹⁾¹¹⁾」のように番号をつけ、本文原稿の最後に一括して引用番号順に記載する。
 - ② 文献を確実に確認できる情報として、著者名・文献タイトル・雑誌名及び書名・掲載箇所（巻（号）、頁、URL等）・発行年等を記載する。
 - ③ コンテンツの電子データに付与される国際的な識別子であるDOI(Digital Object Identifier)は可能な限り記載する。

記載方法の例を以下に示す。

〈日本語論文の場合〉

- 雑誌掲載論文（和文）／著者名：タイトル、雑誌名、巻（号）、頁-頁、発行年
例 遠藤伸子、三木とみ子、大沼久美子他：養護診断開発の方途と養護診断開発システムに関する研究、日本健康相談活動学会誌、4（1）、47-65、2009 <https://doi.org/10.50846/jjahca.09-1>
- 雑誌掲載論文（欧文）／Author(s) : Title, Journal name, Volume(Issue), pp. xx-xx, Year
<https://doi.org/xxxxx>
例 Asakura T, Gee GC, Asakura K: Assessing a culturally appropriate factor structure of the Center for Epidemiologic Studies Depression (CES-D) scale among Japanese Brazilians, *International Journal of Culture and Mental Health*, 8(4), 426-445, 2015 <https://doi.org/10.1080/17542863.2015.1074259>
- 単行本／著者名（分担執筆者名）：タイトル、編集・監修者名、書名（版数）、頁一頁、出版社名、発行地、発行年
例 三木とみ子：養護の本質と概念、（三木とみ子編）、新訂養護概説、1-4、ぎょうせい、東京、2018
- 翻訳本／著者名（原書の発行年）／訳者名（翻訳書の発行年次）：翻訳書の書名（版）、頁-頁、出版社名、発行地
例 ミルトン・メイヤロフ（1971年）／田村真、向野宣之（1987年）：ケアの本質—生きることの意味（初版）、161-171、ゆみる出版、東京）
- ホームページ、インターネットウェブサイト／引用内容が明確に記載されているURLを示

し、アクセスした年月日を（ ）内に記載する。書籍とウェブサイト双方に同一の引用文献がある場合は、書籍を記載する。

例：文部科学省：中央教育審議会「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」（答申）（平成20年1月17日）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1216829_1424.html (2020年1月30日にアクセス)

〈英語論文の場合〉

- 雑誌掲載論文（欧文）／日本語論文の英文引用の際と同様とする。
- 雑誌掲載論文（和文）／末尾に（in Japanese）と付し日本語の論文であることを明示する。英文アブストラクトの付いているものには、“(In Japanese with English abstract)”と明示する。雑誌名は刊行元による英語表記に従うが、英語表記のない場合には日本名をローマ字（ヘボン式）に直し記載する。

例 Miki T: The Role of Academic Societies in Enhancing and Developing of Health Consultation Activities in School, Journal of Japanese Association of Health Consultation Activity, 1(1), 1-5, 2006 (in Japanese, translated by the author of this article)

- 単行本（欧文／和文）／記載内容は日本語論文と同様とする。和文の場合、末尾に（in Japanese）を付する。なお、文献名に英訳の付いていない場合は適宜英訳したものを記載し、“(In Japanese, translated by the author of this article)”と記載する。

例 Miki T: The Essence and Concept of Yogo, Miki T (Ed.), *Newly Revised Edition of Yogo Overview*, 1-4, Gyosei, Tokyo, 2018 (in Japanese, translated by the author of this article)

- 国内で発行した通知文や手引き書等

英文訳で掲載し、末尾に（in Japanese）を付け添える。文献名に英訳の付いていない場合は適宜英訳したものを記載し、“(In Japanese, translated by the author of this article)”と記載する。

例 Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology-Japan : Support for Children Facing Contemporary Health Issues and Challenges: Focusing on the Role of Yogo teachers, Available at: https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1384974.htm (Accessed Aug 12, 2025 (In Japanese, translated by the author of this article)

論文構成見本

表1 論文の構成

項目		内容
タイトル (日本語・英語)		端的に内容を表す。タイトル(英語)は、原則として先頭の文字のみ大文字とする。
著者名 (日本語・英語)		著者全員の氏名
所属機関名		著者全員の所属 (右上付き文字で※1、※2を使い、著者名と対応させる)
表紙	代表者の連絡先	筆頭著者の所属機関の住所(郵便番号含む)、郵便物受け取り住所、個人の電話番号、メールアドレス
	図表や写真の数	
	希望する原稿の種類	
	別刷希望部数	
	編集委員会への連絡事項	
要旨	要旨 (日本語)	600字程度 (目的・方法・結果・考察または結論等の見出しを付け、構造化して記載する)
	キーワード (日本語)	5つ以内 (重要なワード順に記載する)
	Abstract (英語)	要旨の英訳を、400words程度で記載する。
	Keywords (英語)	キーワードの英訳 (原則として小文字使用)
※タイトル及び要旨の英語表記は、採択後、ネイティブによる専門業者の校閲を受け、証明書と併せて2週間以内に提出してください。		
	I 緒言 (はじめに、など) /Introduction	背景と目的
	II 方法 (対象と方法、など) /Methods	対象と方法、倫理的配慮を記載する。
	III 結果 /Results	結果は、図・表などを使いわかりやすく示す。
	IV 考察 /Discussion	目的、結果に添い、論理的に矛盾や飛躍がないようまとめる。
本文	V 結語 (結論、おわりに、など) /Conclusions	簡潔に結論を示す。
	謝辞 /Acknowledgements	(必要な場合に記載する。)
	付記 /Author's Note	利益相反状態について記載する。科学研究費など外部の獲得資金等の一環で行った場合についても必要に応じ記載する。
	引用文献 /References	投稿規程に添って、引用順に示す。
	図・表・写真	1頁に1枚ずつ作成する。図は、原則として、そのまま掲載できる明瞭なものとする。(タイトルの記載箇所: 図と写真は下に、表は上に掲載する。表には縦罫線は使わない)

表2 「実践研究」の本文の構成

項目		内容
本文	I 緒言 (はじめに、など) /Introduction	背景と目的
	II 方法 (対象と方法、など) /Methods	実践した活動に関する方法と内容ならびに倫理的配慮について記載する。
	III 結果と評価 /Results and Evaluation	事業や実践活動の結果やそこから得られた成果について記載する。
	IV 今後の課題と展望 /Challenges and Future Directions	実践を展開する際の研究的課題や実践的課題、今後似たような活動をする人たちへの示唆等を記載する。
	謝辞 /Acknowledgements	(必要な場合に記載する。科学研究費など外部の獲得資金等の一環で行った研究の場合についても必要に応じ記載する。)
	付記 /Author's Note	利益相反状態について記載する。科学研究費など外部の獲得資金等の一環で行った場合についても必要に応じ記載する。
	引用文献 /References	投稿規程に添って、引用順に示す。
	図・表・写真	1頁に1枚ずつ作成する。図は、原則として、そのまま掲載できる明瞭なものとする。(タイトルの記載箇所: 図と写真は下に、表は上に掲載する。表には縦罫線は使わない)

※表紙と要旨は表1に準ずる。